

第6学年*組 外国語活動 学習指導案
指導者：T1(JTE)今野俊輔・T2(JTE)小林久晃・T3(HRT)瀬谷誠・T4(ALT)Dior Chan

授業課題	英語を用いて積極的に発信する態度や能力を育む指導の在り方 ～学習への動機付けと意味のある自己表現活動の工夫を通して～
授業に関するハワイ大学での研修内容	★①「道具的動機付け」と「統合的動機付け」を行うことは英語学習への良い動機付けとなる。 ★②英語によるよりインタラクティブなコミュニケーションの実践を図るためには「意味のある言語学習」が必要である。 ★③より多くのインタラクションを行うことは英語学習への動機付けを図る上での重要な要素となる。

1 単元名 Lesson 6 What time do you get up? (Hi, friends! 2)

2 単元の目標

- 積極的に自分の1日を紹介したり、友達の1日を聞き取ったりしようとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 生活を表す表現や、1日の生活についての時刻を尋ねる表現に慣れ親しむ。
(外国語への慣れ親しみ)
- 世界には時差があることに気づき、世界の様子に興味をもつ。
(言語や文化に関する気づき)

3 単元について(6年*組 男子*名, 女子*名 合計*名)

本単元は、自分の1日の行動を紹介したり、友達の1日の行動を聞き取ったりして、生活の中で児童が直接関わる行動を表す表現や、その行動についての時刻を尋ねる表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養うことをねらいとしている。

本校では、英単語やアルファベットを用いた掲示物を掲示した English Room で外国語活動を行っており、児童が英語に親しみ、身近に感じられるような環境作りに努めている。本学級の児童20名は、毎週の外国語活動を楽しみにしており、まじめに取り組んでいる。ゲームや友達・ALTとのコミュニケーションを行う場面では活発に活動する様子が見られる。一方で、「うまく聞き取れない。」「上手に発音できない。」と難しさを感じている児童や、自分の取り組みに自信をもてず、積極的に発音したり自分の考えを表現したりすることを苦手としている児童もいる。

本単元の教材内容や児童の実態、小学校学習指導要領外国語活動編からの考察に基づき、英語を用いて積極的に発信する態度や能力を育む指導を実践したいと考えた。そこで、ハワイ大学での研修を通して学んだ第二言語の教授法の中のいくつかを取り入れることとした。

Dr. Richard Schmidt による第二言語の学習者への動機付けに関する理論に基づき、まず、"Instrumental Motivation"「道具的動機付け」としてルーブリックを活用することとした。活動前に児童に評価の指針を示すことで、各自が本時の学習活動における到達目標の把握や活動目標の設定を行い、学習への意識・意欲を高められるようにする。活動後には児童が自己評価を行い、自分自身の到達度を確認することで、自分の外国語活動への自信や今後の課題をもてるようにしたい。

次に、"Integrated Motivation"「統合的動機付け」の一つとして Dr. Kenton Harsch による第二言語の教授法である"Meaningful Language Learning"「意味のある言語学習」を取り入れることとした。これは、課題解決のために英語を使用する必然性のある活動のことであり、第二言語の習得にはインタラクション(お互いに自分の考えや気持ちを発信し、交換し合う)を取り入れることが必要であるという理論である。小学校学習指導要領外国語活動編の2内容1には(1)「外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。」(2)「積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。」(3)「言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。」とあり、インタラクションの必要性が述べられている。インタラクションの機能を働かせるためには「話すこと」が不可欠となり、「話すこと」には「話したい意味」「話す場面」「話す相手」という3つの要素が必要となる。単に語彙や文を練習するだけでなく、児童自身に関することを内容に盛り込んで話すことが「話したい意味」をもつために不可欠であり、「意味のある言語学習」の実践となると考えた。そこで、児童同士、児童と教師がお互いのことを知る・知らせ合う活動を行い、自分自身や身の回りの人のことを具体的に表現することで、「話したい内容」をもたせられるようにしていきたい。

さらには、ハワイ大学の附属校である UNIVERSITY LABORATORY SCHOOL での授業で行われていた「インタラクションの量(話す量・書く量)を重視する」ことを念頭に置くこととした。これは、より多くのインタラクションを通して、児童が英語に慣れ親しむ度合いを深め、「自分の考えや気持ちをたくさん表現できた」という達成感や喜びを味わい、英語学習への自信や意欲をもたせられるようにすることをねらいとしている。

加えて、3・4人のグループ活動を取り入れ、児童が共に学び合う場として活用する。この「協同的な学び」の中で、児童がお互いに支援し、認め合うことで、「よく理解できた」「思うように表現できた」という達成感や喜びを味わい、英語学習への自信や意欲をもたせられるようにしていきたい。また、グループ活動を通して、「話すこと」に必要な要素である「話す場面」及び「話す相手」をより多くもつことで、児童によるインタラクションの活性化を図っていきたい。

4 指導計画(5時間扱い)

時	学習内容及び学習の流れ	評価の観点			評価の規準(方法)
		関	慣	気	
1	○ 1～60までの数字の言い方を知る。	○			・ 数字の言い方を知る活動に積極的に取り組んでいる。(行動観察, ルーブリック)
2	○ 時刻の言い方と動作の言い方を知る。	○			・ 時刻と動作の言い方を知る活動に積極的に取り組んでいる。(行動観察, ルーブリック)
③	○ 生活を表す表現やその時刻を尋ねる表現に慣れ親しむ。 What time do you get up? / I get up at seven.		○		・ 生活の時刻を尋ねたり答えたりしている。(行動観察, ルーブリック)
4	○ 時差があることに気づく。			○	・ 世界には時差があること、世界はつながっていることに気付いている。(行動観察, ルーブリック)
5	○ 動作や時刻の言い方に慣れ親しみ、相手に伝わるように工夫して自分の生活を紹介しようとする。		○		・ 相手に伝わるように工夫して自分の1日を紹介している。(行動観察, ルーブリック)
主な言語材料 ・ I get up at seven. ・ What time do you get up? ・ get up, go to school/bed					

5 本時の指導

(1) 目標

○ 生活を表す表現や、1日の生活についての時刻を尋ねる表現に慣れ親しむ。(外国語への慣れ親しむ)

(2) 準備・資料

ワークシート、カード、ループリック、掲示物、ICT 機器

(3) 展開

学習内容・活動（形態）	活動への支援内容 ※評価	
	JTE・HRT	ALT
1 挨拶やモデル対話を行い、授業の雰囲気づくりをする。 JTE/HRT/ALT: Hello, everyone. Ss: Hello, Mr. Seya.	- 学習した表現を実際に用いながら挨拶やモデル対話を行うことで、英語学習の雰囲気づくりをする。 - HRT は活動全体を通して配慮の必要な児童を援助する。	学習した表現を実際に用いながら挨拶やモデル対話を行うことで、英語学習の雰囲気づくりをする。
2 本時の基本表現を用いて児童と教師が問答する。★③ JTE/HRT/ALT: What time do you get up? S: I get up at seven. / At seven. / Seven. What time do you get up? JTE/HRT/ALT: I get up at five thirty.	- 本時の活動への意識・関心・意欲を高めるために、前時までの学習内容を盛り込みながら、本時の基本表現を用いて対話を行う。 - 児童に、前時までの学習内容を確認しながら積極的にコミュニケーションを図るように言葉かけを行うと共に、児童を個々に称賛する。 - スムーズに質問できない時には、教師の例やヒントを示す。 - 教師は様々な表情やジェスチャーを使い、児童の見本となるようにする。	- 本時の活動への意識・関心・意欲を高めるために、前時までの学習内容を盛り込みながら、本時の基本表現を用いて対話を行う。 - 児童に、前時までの学習内容を確認しながら積極的にコミュニケーションを図るように言葉かけを行うと共に、児童を個々に称賛する。 - スムーズに質問できない時には、教師の例やヒントを示す。 - 教師は様々な表情やジェスチャーを使い、児童の見本となるようにする。
3 本時の学習課題と活動内容、到達目標を確認する。★① 6年1組で一番の早寝・早起きの友達を見つけよう。	本時の学習課題と活動内容（1日の生活についての時刻を尋ね合ってお互いのこと知る活動）を示すと共に、到達目標をループリックを用いて提示し、生徒の学習活動への意識を高める。	
4 基本表現を確認・練習する。★② (1) ALT と JTE/HRT の対話から基本表現を聞き取り、確認する。 What time do you get up? I get up at seven. (2) 教師の対話を反復し、基本表現を練習する。 ALT: What time do you get up? JTE/HRT: I get up at five thirty. (3) 教師の起床・登校・就寝などの時刻を予想させる。	- ICT 機器を用いて教師の実際の生活の様子を提示し、対話に反映させることで、児童の実際の生活に関わる内容・表現であることを示し、活動への関心・意欲を高める。 - 対話を通して基本表現の使用例を具体的に示すことで、本時の活動の円滑な実践を図ると共に、基本表現の定着を図れるようにする。 - どの児童も聞き取れるように、モデル対話をゆっくりと発音しながら繰り返し提示する。 - JTE と ALT は問答のモデルを提示し、児童の理解を促す。 - この後の教師との対話への関心・意欲をもてるようクイズ形式にする。この場では回答しない。	
5 インタビュー活動の準備を行う。★③ (1) 活動で使う時刻や語彙を使ってキーワードゲーム（カルタ取り）を行う。 (2) 活動で使う語彙や文の発音とチャンツを行う。 (3) 活動で使う時刻や語彙を発表する活動を行う。教師が示す時刻や生活の様子を表す絵を見て英語で発表し、グループのポイントを競い合う。 キーワード: 6:00, 7:15, 12:30, 10:50, 12:40 get up / go to school / eat dinner / go to bed What time do you get up? / I get up at seven.	- デモンストレーションを行い、活動が円滑に行われるように配慮する。 - どの児童も聞き取れるように、複数回ゆっくりと発音する。 - 聞き取りの難しい数字や語彙は、聞き取りのポイントを伝える。 - JTE/HRT は児童と共に活動しながら児童への指導・助言を行う。 - 発音している語彙や文はこれから活動で使うことを伝え、大きな声で元気に発音するように指示する。	- ゆっくりテンポよく発音するように心がける。 - テンポよく、リズムカルに発音する。 - リズムに合わせて元気に発音するように、声をかける。
6 友達や教師の起床・登校・就寝などの時刻を尋ねる活動を行う。★②★③ (1) グループになってモデル対話を練習し、表現の仕方をお互いにチェックする。 (2) インタビューを行い、聞き取ったことや時間をメモする。 約5分で次のグループに移動し、そのグループの中で再度対話を行う。移動を繰り返し、新たなメンバーで活動することにより、発話量を増やす。最後は教室を自由に歩いて教師や対話していない生徒と対話する。	- ALT/HRT は児童と共に活動しながら児童への指導・助言を行う。 - JTE は活動の進行を確認しながら全体への指示を行う。 - 時間を区切り、グループの中で Aペア(隣) Bペア(前後) Cペア(斜め)という形態で活動させることで、より多くの相手と対話・チェックできるようにする。 - 生徒の取り組みを称賛し、自信をもって活動に取り組めるようにする。 - デモンストレーションを行い、活動が円滑に行われるように配慮する。 - 活動が活発に行われていないグループや積極的に取り組むことができなかったり分りやすい表現できていない生徒については、教師が活動に加わって話し相手になったり表現のヒントを与えたりして支援する。 - JTE は移動のタイミングを伝える。 - 本時の基本表現以外にも、慣れ親しんできた表現を使いながら様々な質問をするように指示する。	児童が理解しやすいように、きれいな発音でゆっくりと伝えるようにする。
Q: What time do you get up? A: I get up at 6:00.	Q: What time do you eat dinner? A: I eat dinner at 8:00.	Q: What time do you take a bath? A: I take a bath at 8:30.
Q: What time do you watch TV? A: I watch TV at 9:00.	Q: What time do you go to bed? A: I go to bed at 10:30.	
(3) 6年1組で一番の早寝・早起きは誰かを発表・確認する。 教師に関するクイズの解答も行う。	活発に名前を挙げたり解答したりするよう声をかける。	名前が挙がった児童及び教師に英語で質問し、英語で答えさせる。
7 本時の振り返りをする。★① ループリックを用いて自己評価を行い、本時の学習活動での到達度を確認すると共に、次時への課題をもつ。	自己評価を通して達成度・課題を確認できるよう、本時の活動における評価項目について具体的に助言する。	活動で良かった点（正しくできたこと・努力したこと）を伝えて称賛し、生徒に自信をもたせる。
8 挨拶をする。		